

仏から宇和島「刀を持ち主に」

「フランス人の刀剣愛好家の男性が、現地のオークションに出品される刀の持ち主を捜している」。愛

媛新聞に情報が寄せられたのは今春のことだった。「真相追求 みんなの特報班」（通称・みんな特）が、送られてきた写真を確認すると、刀に付いた木札に持ち主と思われる男性の氏名や現在の西予市の住所があった。

に関する取材を進め、宇和島市の家族に行き着いた。刀は愛好家の男性が競り落とし、新型コロナウイルスによる入国制限の期間を経て12月、家族の元へ返ってくる。

終戦時に連合軍総司令部（GHQ）に接収された刀らしい。愛媛新聞の過去の記事を手がかりに持ち主

刀の持ち主は19年前に亡くなっていた。終戦から77年余りの時を超えて遺品が戻ってくることに、98歳の妻ら家族は「奇跡のよう」と驚く。その過程には「刀を家族の元に返したい」という愛好家の男性の並々ならぬ熱意と、思いを受け止め行動したフランス在住の日本人女性、知人の高知市の女性が見つないだりレーがあった。

（阪和舞）
（8面に続く）



フランスのオークションにかけられた刀。木札には持ち主とみられる現在の西予市の住所と氏名が記されていた

（提供写真）